

## 岡部研究プロジェクト「研究論文概要集」(2003年度春学期) について

岡部研究プロジェクトでは、1998年度春学期以降、参加メンバーが学期中に執筆したすべての研究論文の「概要」を学期毎に一冊にとりまとめて刊行しています。本書は、2003年度春学期のものであり、このシリーズの第9号に該当します。

今学期の研究テーマは、研究プロジェクト1は「金融研究：情報化の進展と金融業」、研究プロジェクト2は「日本経済研究：情報技術革新と日本経済」であり、ともに情報通信技術革新のインパクトを広範に検討することを中心課題としました。今回の概要集は、第3号以降の刊行物と同様、二つの特徴があります。一つは、ここに収録されている論文要旨は、すべて研究報告会議（今回は2003年7月12?13日に湘南国際村で開催）において報告され、そこでの討議を踏まえて改訂されたものとなっていることです。もう一つは、この冊子の刊行が湘南藤沢学会の正式刊行物として発行されたことです。

本書を刊行する理由は二つあります。第1に、各研究の成果の要点を記録しておくこと自体に意味があることです。第2には、研究テーマとして多様な視点があることを示すことによって、今後の研究の糸口を見つけるヒントになることが期待されるからです。なお、個々の論文に対する質問等は、直接執筆者に対して行ってください（電子メールアドレスは各人の名前のあとの記号@sfc.keio.ac.jpです）。また、過去の「概要」集の目次（履修者の研究テーマ一覧）は岡部研究プロジェクトのウェブサイトに掲載してあります（アドレスは下記）。

なお、これらのうち最優秀と認められたもの（各研究プロジェクト1編、計2編）は、従来どおり、その論文全体が単独刊行物として湘南藤沢学会より刊行される予定です。従来のそうした岡部研究プロジェクト優秀論文は、それぞれすでに公刊されているほか、そのすべてがインターネット上でも公開されており、論文全体を簡単にダウンロードすることもできます。

2003年7月

総合政策学部

岡部 光明

<http://web.sfc.keio.ac.jp/~okabe/>

# 目次

## 研究会 1

日本企業の流動性資産とその設備投資への影響：日米比較の視点から（伊藤貴史）	1
資産運用の機関化が金融市場に与える影響：年金基金のパッシブ運用（福元千佳）	2
投資銀行業務における収益構造と経営戦略（大野昌輝）	3
中日金融システムの比較（王 国君）	4
銀行の収益構造：健全性の回復（小谷光星）	5
金融緩和政策の為替レートを通じた効果：理論的背景と実証分析（光安孝将）	6
東アジアにおける最適通貨制度の考察：通貨統合を目指して（米谷 曜・遠藤泰光）	7
日本の国債市場の流動性と市場改革（藤原史義）	8

## 研究会 2

アメリカにおける機関投資家のコーポレート・ガバナンスへの関与とその効果（吉沼良介）	9
株主重視経営と日本型コーポレート・ガバナンス：アメリカ型からの教訓（赤野滋友）	10
日本の資本主義システムの地域構造：生産・消費の人類学的下部構造（遠藤倫生）	11
繊維産業：構造の国際比較—日本、イタリア、アメリカ（沖本 翠）	12
地方自治体再編プログラム：財政的効率性と最適人口に関する実証分析（鈴木康之）	13
自動車生産システムの企業間比較と今後の展望：トヨタ，フォード，ボルボの例（田中康平）	14
企業年金考察：有益な活用を求めて（日向里奈）	15
コーポレート・ガバナンス：株主価値重視への規律づけ：（藤井 恵）	16